



目 次	
私の見た附属図書館 . . . . . 1	図書館 Web サービス拡充のお知らせ . . . . . 7
学生にすすめるこの一冊 . . . . . 4	附属図書館学生モニター制度について . . . . . 8
「江嶋家文書」CD-ROMの作成 . . . . . 5	図書館日誌（会議，研修） . . . . . 8
「えひめ IT フェア 2002」への参加 . . . . . 5	人事異動 . . . . . 8
農学部分館改修工事終了のお知らせ . . . . . 5	
職員証での貸出開始のお知らせ . . . . . 6	

<http://www.lib.ehime-u.ac.jp>

## 私の見た附属図書館

工学部教授 柏谷増男

### 1. はじめに

平成11年4月から15年3月まで、2期、4年間にわたって附属図書館長を勤めさせていただきました。その職を去るにあたり、若干の感想を述べさせていただきます。一般の教官にとって附属図書館は必ずしもその業務内容がよく理解されている施設とは言えないでしょう。私自身も、自分の研究に統計資料の利用が必要であり、図書館にはよく出入りしていたとは自負していましたが、館長になってみると、図書館のことが何も分かっていなく愕然としたものでした。しかしながら、図書館の業務内容が分からなくとも大部分の教官の教育研究活動が行われてきたということは、基本的には、図書館にとっての重要な問題点であると思われまます。なお、この点については後でふれさせていただきます。次に、予想以上に多くの学生が図書館を利用していることがわかりました。また、図書館スタッフは館長以外すべて職員で構成されており、しかも部長、課長が存在して独自の人事がなされる職員組織であることもわかりました。

### 2. 電子ジャーナル

館長としての最も重要であり、真剣に取り組まれた仕事は電子ジャーナルへの対応でした。情報通信技術の発達に伴って出版の電子化が進行し、図書館の電子化が近年話題になってきていました。特に、学術雑誌では、同時に多くの方が閲覧できることや速報性等の面で電子出版とインターネットが結びついた電子ジャーナルは極めて優れた学術情報源であると認識され、着々と取り組みがなされていきました。愛媛大学でも平成12年からエルゼビア社の無料トライアルを提供し、先端的な研究に取り組まれている先生方を中心に利用が広まっていきました。電子ジャーナルは物の媒体を必要としない情報であり、この特性を活かして単品販売ではなく、セット販売になっています。また、機関で購入すれば、すべての構成員がいつでも自由に閲覧できます。

従来の本や雑誌は情報が紙媒体に印刷されているために、物としての紙を購入、保管していましたが、それらは個別に取引され

ていたために、愛媛大学では、医学部を除いて、雑誌購入は個々の教官、講座、学科等が独自に決定し、保管してきました。図書館はそうした購入物の登録をする事務所にすぎないと多くの教官が考えてきたのではないのでしょうか。このため、極端に言えば、図書館の業務を知らなくとも研究教育活動に何ら支障はなかったと考えられます。

多くの大学が電子ジャーナルの導入を真剣に検討していましたが、一方、ほとんどの大学で年々雑誌購入費総額が低下しておりました。電子ジャーナルの価格は出版社が指定したセットの価格であり、出版社によって価格体系が異なります。このうち最大手のエルゼビア社については、出版社の定める基準価格と大学での冊子体購入総額との差額を支払えば、そのセットに含まれる雑誌全体の閲覧が可能で、愛媛大学では、平成13年(暦年)利用分については大学での冊子体購入総額が出版社の定める基準価格を超えていたので、追加料金は不要でした。ところが、平成14年度利用分については、基準価格の上昇と大学での冊子体購入総額の低下により、追加料金を支払わねばならなくなりました。

問題はこの費用をどのように負担するかです。従来の冊子体だと読みたい人(研究組織)が自前で支払い、その冊子体は支払い者または支払い組織で保管します。大まかに言えば、金を払った人が占有できる私的財に相当します。一方、電子ジャーナルは、愛媛大学教官の誰もが同等の権利で自由に閲覧できます。費用を負担しない人もフリーライダーになれます。しかし、誰かが購入しなければ誰もそのサービスを受けることはできません。これはいわゆる公共財に相当します。私的財のみで成り立っていた社会に公共財を導入することは至難の業といえます。これは、まさに、電子ジャーナルという技術革新が我々の伝統的社会観の変更を強制する"情報化社会問題"であり、このような社会変革に成功しなければ、我々は情報化技術の恩恵にあずかれないのです。これまで、大部分の雑誌については、教官個人または個別の研究組織が雑誌費用を支払ってきました。そこに大学全体で負担すべき共通の追加費用が課せられたとき、快く負担してくれる人がいないことは、これまでの社会のあり方から見てまったく自然です。

しかも、この追加費用は私的財に相当する冊子体総額に追加されるのです。ある会社が提供する学術情報に対して、私的財と公共財とを共に払えということは論理的問題を抱えています。

附属図書館でもこの点については理解しており、そのために相当に苦しみました。電子ジャーナルのセット販売は、アメリカの大学図書館のように、図書館がすべての雑誌や図書を選書権と予算を持つ(従って、教官個人には選書権も予算もない)場合にはスムーズに導入される方式です。最初は、他の国内先行大学を参考にして、附属図書館委員会に雑誌予算と選定権を集中させることを考え、附属図書館委員会で審議していただきましたが、ほどなく無理と分かりました。次に、その逆、つまり、利用者に受益者負担金を払ってもらうことも想定しましたが、電子ジャーナルが公共財であることの物理的条件あるいは公共財の理念自体から検討すると、受益者負担金はふさわしくないとの結論に達しました。この間、全学教官を対象としたアンケート調査を実施するほか、電子ジャーナルについての説明会や勉強会を繰り返しましたが、解決策は見あたらず、途方に暮れる状態でした。

このような状況は、全国の大学図書館に共通しており、旧帝大を中心とした電子ジャーナル・タスクフォースが、出版社側と粘り強い交渉を重ね、いくらかなりとも導入が可能な価格体系を生み出してくれつつありました。一方、文部科学省でも電子ジャーナルの導入が我が国の学術研究基盤の整備に不可欠との認識を強め、電子ジャーナル導入を促進させる予算措置を採ってくれました。附属図書館委員会は精力的な審議を重ね、ついに財務委員会に全学共通の経費として電子ジャーナル負担金を支出して下さるよう要請することになりました。幸い、この案は財務委員会で承認していただき、平成14年度の教育研究基盤校費の0.6%が電子ジャーナル負担金にあてられました。この間、附属図書館委員会の先生方、財務委員会および同委員会企画配分方針等部会の教職員の方々、また大学経理部の皆様方にはひとかたならぬお世話になりましたことを、この場を借りて厚くお礼申し上げます。他大学の状況を見ると、大部分の

大学が、窮余の策として学長裁量経費での支払いを行っています。大学共通の研究基盤経費は大学の共通の経費でまかなうことが本筋だと思います。ささやかなりとも、全国の大部分の大学とは別に、共通の経費での負担という道筋をつけられたことにひそかな自負を抱えています。

さて、平成15年の利用計画を平成14年度に立てようとしたのですが、冊子体購入費の低下により、またまた予算問題に直面しました。この件は理学部および工学部に特別のご配慮をいただき、乗り切る見通しがつきました。なお、本年になって文部科学省からの先端科学研究に関する電子ジャーナル経費の思いがけない支援をいただき、より発展的な方向に進みつつあります。しかし、平成16年利用分の契約については、さらに冊子体購入費が低下すると予想されること、および、文部科学省からの支援が頭打ちになることも懸念され、一段と苦しい状況が予想されます。

平成16年度以降は法人化の下で予算制度がまったく変わると予想されます。毎年綱渡りの繰り返しも出来ないでしょうし、予算制度の変更によって末端の配分校費が大きく低下すれば冊子体購入額が大幅に低下することも心配です。電子ジャーナル経費についての抜本的な検討が避けられないと考えられます。

電子ジャーナルを精力的に利用されている教官は、実はそれほど多いとは言えません。恐らく、教官全体の半数を超えることはないと思われます。にもかかわらず、その経費を全学で負担することに疑問を感じる方がいるかも知れません。しかしながら、電子ジャーナルは国際的な研究競争にさらされている教官には死命を制する研究基盤と言えます。愛媛大学が、すべての教官の役割ではないとしても、研究大学としての地位を保つためには電子ジャーナルはどうしても必要です。そして、その経費は、全学すべての教官が共通して負担することで初めてまかなえるのです。今後とも、電子ジャーナルの問題を正しく認識していただき、負担にご協力下さるようお願い申し上げます。また、それによって愛媛大学の学術研究がより一層発展することを望んでいます。

### 3. 学生にとっての図書館

年間の図書館入館者数は本館で約45万～50万人、農学部、医学部の分館を合わせると約60万～70万人です。開館日1日あたり、本館で約1500人となりますが、夏休み中は来館者が少ないことを考慮すると、繁忙期には2000人あるいは2500人が来館していることとなります。これらの来館者のほとんどは学生です。率直に言って、図書館長になるまで、これほど来館者が多いとは思っていませんでした。本の貸出し者数は、学生については、本館で年間3万～4万人、両分館を合わせて5万～6万人で、入館者の1割程度となっています。本の借り出しではなく、閲覧のみを目的としている学生も多いと予想できますが、それ以外にもいろいろな目的で、学生達は図書館を利用しているようです。

時々、閲覧室やロビー等を覗いてみると、本を読んでいる学生のほかに、自習している学生や、友人とグループ学習している学生、談笑あるいは休憩している学生、さらにはパソコンを利用するのが目的と思われる学生も見られます。このように、図書館は本を読むという本来の目的以外にも学生の居場所として多様な役割を果たしています。考えてみれば、理系の研究室配属学生でなければ、大学内に自分専用の机や椅子、書棚やパソコン等を持っていないのが普通で、学生が勉強したり、談笑したりする特別な空間はキャンパスには無いようです。数千人の学生にとって、図書館が唯一そのような場所なのかもしれません。図書館での彼らの活動は、何らかの知的活動に関連しているはずで、他人に迷惑をかけるものでない限り、大いに奨励されてしかるべきでしょう。海外の大学図書館も事情は同じで、学生達のための談話室やパソコン利用室、さらには軽食の提供をしている場合もあります。

こうした、学生の利用に対して、本学図書館は十分な役割を果たしているのでしょうか。残念ながら、自信を持ってうなずける状態ではありません。本学図書館の建物が、他大学の新しい図書館に比べていささか見劣りするのは避けられません。その中で、大学執行部の英断により、平成13年度から館内設備等の大幅な改修が始められ、ずいぶんと明るい環境が確保されつつあり、感謝しています。また、グループ学習室の利用も盛んになって

いることは喜ばしいことです。

しかしながら、国内外の他大学図書館と比べると、居住環境やパソコン利用、留学生への配慮等まだまだ改善すべき点は多いと思われます。また、学生用図書の購入方法や実績についても課題を抱えたまま、改善の努力がいたらなかったことは、素直に謝らねばなりません。特に平成14年度に、文部科学省から配分される学生用図書費の減額に伴って図書購入予算が減少したことは、学生の皆さんに借金を残したようで心残りです。

学生用図書の充実や学生の居場所としての図書館の環境改善は、広く学生の学習・生活環境を整備するという視点のもとで、全学的な立場に立って再検討すべきでしょう。この点について今後、前向きな議論が展開されることを希望しております。

#### 4. 職員をめぐる状況

本学図書館では定員内職員が24名、非常勤職員が2名、パートの方々が17名、合計43名の方々が働いています。定員内職員のうち多くの方々は、いわゆる図書館専門職という形で、他大学への若干の移動も含めて図書館内での業務にずっと携わっておられます。批判がましい言い方かも知れませんが、大学内での他部局、地域社会等との仕事上の交流は少ないと思えます。一般社会の他の組織を見ても感じるのですが、このように比較的小規模の職場で外部との交流が乏しいことは、あまり好ましいことではないのでしょうか。適当に外の風を取り入れていつもフレッシュな気分で行事についていただければ良いのだが、と常日頃考えていました。地方自治体との連携事業も、外部資金の導入

という面もさることながら、学外の方々との交流効果もねらって試みたものです。

そうしたおりに、願ってもない話が飛び込んできました。アメリカ、ワシントン大学バセル校附属図書館との国際交流です。実際には、交流の中心的役割を果たしている両大学の先生方の中でたまたま出てきた話のようですが、愛媛大学の図書館職員がアメリカの大学図書館を訪問して、内部を見せていただき、先方の職員と話し合うことができれば大変楽しいことではないだろうかと思っています。自分たちとはまた違った職場のあり方があることを知るだけでも日常の仕事の良い刺激になるでしょうし、参考にすべき点も見つかるのと期待されます。アメリカに自分たちのつきあえる友人ができ、お互いに訪問しあう、そういう仕事上の楽しみが生まれれば日常の業務にもなにかしら張りが出てくるのではないのでしょうか。私は勝手にそう解釈して、早速、学長とともに2月に訪問しました。まだ、先方の図書館職員にはこの話は直接伝わっていませんでしたが、幸いにも関係者の暖かいもてなしを得ることが出来ました。できればこの8月か9月に職員の方々と訪問できればと一人で思っています。その時には、私は館長ではありませんが、関係者の一員としていただければありがたいものです。

附属図書館長の席を汚した4年間、多くの方々にお世話になりました。勝手な言動が多く、関係者の皆様にはいつも迷惑をかけてきました。これからも附属図書館がますます発展されますよう、本学の一教官としてお祈り申し上げます。

(かしわだに ますお 前附属図書館長)

## 学生にすすめるこの一冊

下記の図書を理学部教官から紹介していただきました。本館開架室に備え付けておりますのでご利用ください。

長岡伸一 教官 (理学部物性科学)

『仏教の源流：その知と信』

山崎勇夫著 里文出版 2002

請求記号：181.02/YA

生命科学の研究者が、釈迦が直接語った言葉として伝えられる最古の経典「スッタニパータ」を読み解いて、宗教と科学の接点を探っている。宗教と科学の関わりを見つめ直し、神の領域での科学を考え、本当の自己を見つけるのに最適の本である。

## 「江嶋家文書」CD-ROMの作成

「江嶋家文書」が、今治市との共同事業でCD-ROMとして作成されました。「江嶋家文書」とは、江戸時代初期に活躍した今治藩家老江嶋為信関係文書・書簡・短冊などの資料です。為信(1635-1695)は、文学史的に著名で、仮名草子、兵法書などを出版し、俳諧に親しみ、井原西鶴と交流を持つ一方、出身地宮崎県日向から甘藷を今治にもたらし、食生活を安定させました。彼の業績は、行政、農業政策、文学にわたり、その資料は多様な価値を持ち、江戸時代初期から明治にいたるまでの今治の姿を知ることができます。資料には、天保年間に行った婚礼料理の献立目録もあります。

平成15年1月14日(火)には、今治市総合福祉センターにおいて、完成記念式典と監修された本学福田安典教育学部助教授の記念講演会、並びに婚礼料理の復元と試食会が行われ、地元新聞社などで報道されました。

今治市立図書館では、生涯学習教材や学校教して活用してもらうため1月21日(火)からCD-ROMの貸出を始めました。同時に、愛媛大学附属図書館でもインターネットでの公開を始めました。

大学図書館と地方自治体が連携協力して、地域の特色ある情報を発信し、地域に貢献する事業は全国的にもめずらしいケースで、昨年度の西条市との連携による「西條誌稿本」CD-ROM作成に続く「電子図書館」事業です。



## 「えひめITフェア2002」への参加

附属図書館は、昨年に引き続き、平成14年11月29日(金)、30日(土)の両日にわたり愛媛県などが主催する「えひめITフェア2002」に出展しました。

このフェアは、今後高い成長が見込まれる「IT」関連産業の育成や市場開拓を図るため開催されるもので、機器やソフトウェアの展示のほか、デジタル技術作品のコンテストなども行なわれました。

附属図書館からは「IT時代における大学図書館」をテーマに、大型プラズマディスプレイによる図書館活動の紹介、インターネットでの学術情報提供、貴重資料の電子展示、市民サービスの紹介、マルチメディア通信の体験などを出展しました。また、共同参加の工学部からは、交通渋滞を緩和するための都市交通シミュレーションシステムが出展され

ました。

フェアには、多数の方が来場され、図書館に対しても、図書館活動や利用についての質問を受けました。地域における大学図書館としての役割を担い、社会連携をより推進するため、自らの活動をアピールする必要性を改めて痛感しました。

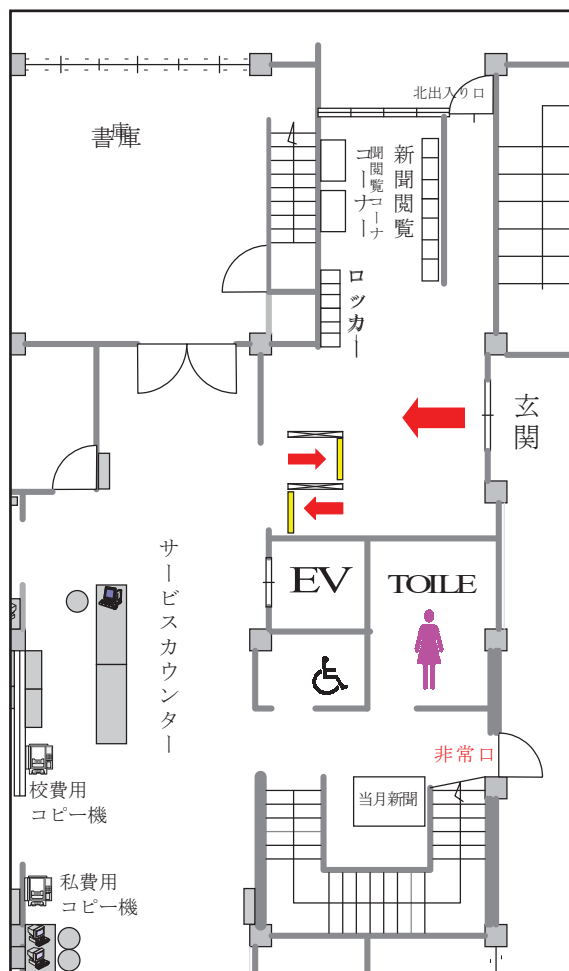


## 農学部分館改修工事終了のお知らせ

農学部2号館改修工事のため8月からご迷惑をお掛けしていましたが、下記のように改修しましたのでお知らせします。

玄関右側を拡張し、新聞閲覧コーナーを移設しました。新たな設備としてエレベーターを設置しました。トイレは1階を女子用、2階を男子用として整備しました。

また、3月1日からは、農学部所属の教官、大学院生、学部4回生以上の方を対象に、開館時間外にも学生証・職員証等で入館できるようにいたしました。緊急に雑誌論文が必要な場合などにご活用ください。



農学部分館1階（入口付近）



玄関



エレベーター

## 職員証での貸出開始のお知らせ

附属図書館では、平成15年1月から、昨年末に大学から全教職員に発行された「愛媛大学職員証」により資料の貸出ができるようにいたしました。

これにより、これまで附属図書館に利用者

登録されていなかった方も、「愛媛大学職員証」をお持ちいただければ、すぐに資料の貸出ができるようになりました。

図書館ではこれを機に、教職員の方々の利用がますます活発になることを期待しています。

## 図書館 Web サービス拡充のお知らせ

### ■図書館 Web サービスの拡充点

このたび附属図書館では、すでにご利用頂いております Web を利用した図書館サービスの見直しを行い、次のようにサービスの拡充を図りました。

- 新たなサービスとして「図書の整理済み通知」および「選書サポートシステム」を開始しました。また、「図書購入依頼サービス」について、利用エリアを城北地区および樽味地区に拡大しました。
- ご要望の多かった利用者認証の方式変更を行い、ID とパスワードによる認証方式としました。
- 「コンテンツサービス」および「ILL（文献複写・貸借）システム」について、対象者を本学学生および院生に拡大しました。

### ■現在の図書館 Web サービスの内容

#### 1)コンテンツサービス：(教職員対象 学生・院生対象)

自然科学系を中心とした外国雑誌約 14,000 種類の目次情報を提供するサービスです。基本的な機能として、目次情報の検索機能のほか、電子ジャーナルへのリンク機能、本学の所蔵情報(OPAC)や全国の所蔵情報(NACSIS Webcat)へのリンク機能があります。さらに次の3つの便利な機能を用意しています。

#### ●新着号コンテンツの配布サービス

希望するタイトルの情報 (ISSN) を登録しておくこと、該当タイトルの新着号の情報が届いたとき、メールでお知らせします。

#### ●新着情報の自動検索

新着情報が到着の都度、それに対しあらかじめ登録いただいた検索式で検索を行い、結果をメールでお知らせします。

#### ●文献複写申し込み

検索結果から、文献複写の申し込みができます。(文献取り寄せにかかる経費は有料)

#### 2)ILL(文献複写・貸借)申し込みサービス：(教職員対象 学生・院生対象)

附属図書館に対し、オンラインで文献複写、現物貸借の申込ができます。

なお、同一キャンパスに所蔵されている資料については、直接ご利用をお願いします。

#### 3)図書購入依頼サービス：(教職員対象)

附属図書館に対し、オンラインで校費による図書購入の申込ができます。申し込み状況の確認(依頼済みデータの参照)も行えます。

#### 4)整理済み通知サービス：(教職員対象)

図書整理済みの通知を、メールでお送りします。

#### 5)図書選書サポートサービス：(教職員対象)

TRC(図書館流通センター)社の週間新刊案内を利用した図書情報検索サービスです。学生用図書や研究用図書の選書にご活用ください。

### ■現在の図書館 Web サービスの申し込み

このサービスの利用を希望される方は、図書館ホームページの「図書館 Web サービス利用申し込みについて」にあります利用申込書で手続きをしてください。

利用申込書の提出先および問い合わせ先

- 城北キャンパス 資料サービス係 (8844, 8845) [etsuran@lib.ehime-u.ac.jp](mailto:etsuran@lib.ehime-u.ac.jp)
- 重信キャンパス 情報サービス係 (5482, 5483) [medlib2f@lib.ehime-u.ac.jp](mailto:medlib2f@lib.ehime-u.ac.jp)
- 樽味キャンパス 情報サービス係 (405, 225) [agrlib@lib.ehime-u.ac.jp](mailto:agrlib@lib.ehime-u.ac.jp)

**附属図書館学生モニター制度について**

附属図書館では、1月9日に「学生モニターとの懇談会」を開催しました。

学生モニター制度は、附属図書館が平成13年度から「教育環境改善経費」による環境整備を推進することになったことを受け、これら環境整備計画に広く学生の自由な意見を取り入れるため、また、図書館サービスをより質の高いものとするため設けたものです。

懇談会では、館長を交えて、学生モニターアンケートによる図書館への意見・要望等、またそれに対する図書館の今後の取り組み・改善策などについて活発な意見交換が行われました。

**図書館日誌（会議・研修）**

- 10月 8日   メタデータ・データベース共同構築事業説明会（京都大）  
情報サービス課長出席
- 10月 10日   国立大学図書館協議会中国四国地区協議会実務者会議（岡山大）  
図書情報係長出席
- 10月 16日   平成14年度愛媛大学係長研修  
～18日    学術情報係長出席
- 10月 18日   第3回附属図書館将来計画委員会
- 10月 23日   中国四国地区大学図書館研究集会（山口大） 雑誌情報係長、システム管理係長出席
- 10月 28日   四国地区課長研修（高松市）  
～31日    情報サービス課長出席
- 11月 5日    第4回附属図書館将来計画委員会
- 11月 7日    中国四国地区国立大学附属図書館事務部課長会議（岡山大）  
部長、情報サービス課長出席
- 11月 14日   SciFinder Scholar 説明会  
～15日
- 11月 14日   第38回日本医学図書館協会中国・四国部会総会（岡山大）  
医学部資料情報係長出席

- 11月 21日   第1回学生モニター会議
- 11月 27日   部長研修(東京)事務部長出席  
～29日
- 11月 29日   えひめ IT フェア 2002 展示  
～30日    （アイテムえひめ）
- 12月 5日    国立大学図書館協議会シンポジウム西地区(九州大)  
～6日    医学部情報サービス係長出席
- 12月 24日   第5回附属図書館将来計画委員会
- 1月 9日    第2回学生モニター会議
- 1月 14日    「江嶋家文書」CD-ROM 完成記念式典（今治市）
- 1月 23日    国立大学附属図書館事務部長会議(岐阜大) 事務部長出席
- 2月 17日    NACSIS-CAT/ILL 講習会担当者会議 図書情報係長出席
- 3月 6日    法人格取得問題に関する附属図書館長懇談会（東京大）  
館長、情報管理課長出席
- 3月 11日    学術講演会 立命館大学郷端氏
- 3月 19日    第3回附属図書館委員会